P1-4

がん登録でわかる 離島医療の今とこれから

引野　美貴子[1)]、曳野　肇[2)]

1）松江赤十字病院　医療情報管理課
2）松江赤十字病院　乳腺外科、ゲノム診療科

【背景と目的】

島根県は隠岐という離島地域があり、島内の病院だけでは対応が難しい患者を当院を含む隠岐医療圏以外の病院で受け入れている。当院のがん登録データから、当院は松江圏域の次に隠岐圏域の患者が多く来院していることがわかったため、がん登録データを用いて隠岐圏域患者の受診動向の把握を目的に分析を行った。

島民割運賃表（抜粋）

島後～本土		通常料金	割引運賃
フェリー往復券	大人	6,670	2,690
	小人	3,350	1,350
レインボー（高速船）往復	大人	9,840	4,290
	小人	4,940	2,150
レインボー復路急行料	大人	2,860	1,440
	小人	1,430	720

島前～島後		通常料金	割引運賃
フェリー往復券	大人	3,040	1,370
	小人	1,520	690
レインボー（高速船）往復	大人	4,490	2,620
	小人	2,250	1,310
レインボー復路急行料	大人	1,310	1,130
	小人	660	570

隠岐～出雲		通常料金	割引運賃
航空路	大人	15,250	5,600
	小人	15,250	5,600

金額がお得になる島民割引あり。しかし、七類港や出雲から目的地までの移動手段や交通費用を考えると負担金額は多くなる。

隠岐圏域の病院

隠岐病院
診療科：17
病床数：115
医師数：22
（非常勤医師あり）
総診・内科・精神・外科・整形
小児・産科・耳科・歯科・麻酔
（特殊外来診療）
神内・腎内・耳鼻・泌尿・皮膚

隠岐島前病院
診療科：8
病床数：44
医師数：8
（パート医師２名）
内科・外科・小児科
（パート診療）
産婦人科・耳鼻科・眼科・
精神科・整形外科

島根の医療圏域

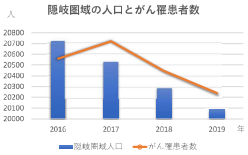
島根県のがん診療連携拠点病院
都道府県がん診療連携拠点病院
★島根大学医学部付属病院
地域がん診療連携拠点病院
☆松江市立病院
☆松江赤十字病院
☆島根県立中央病院
☆浜田医療センター

参考サイト：未来の医療（ジェップ/医療・福祉/健康・予防/がん対策とがん患者の就学・就労応援サイト）★地域の取組）（2024年度版）

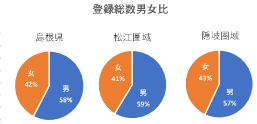
【方法と対象】

島根県全国がん登録データより、2016～2019年の登録時住所が隠岐圏域の症例を抽出し、がん罹患症例数、初診施設、初回治療施設、部位、性別、年齢、ステージを対象とした。＊今回行った調査で扱ったデータには個人情報は一切含まない。

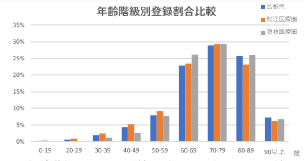
【結果　①】《隠岐圏域のがん》



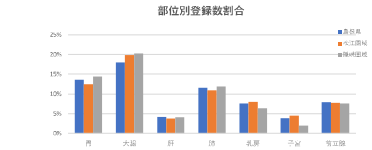
隠岐圏域の人口は2016年から毎年約200人ずつ減少している。がん罹患者数も、2017年に若干増加したが、人口に比例して減少している。



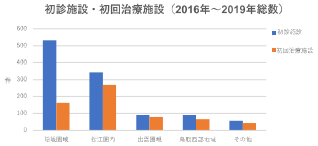
男女比の割合は、島根県、松江圏域、隠岐圏域共に男性の割合が女性の割合より少し多く、登録総数男女比はほぼ同じであった。



年齢階級別では、隠岐圏域では60代までの比較的若い年齢層は罹患割合が少なく、60代以降の割合が多くなっている。

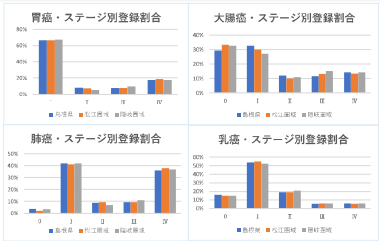


島根県、松江圏域と比較して隠岐圏域は大腸の罹患割合が多く、胃、肺、肝でも松江圏域よりも多い割合となっている。乳房や子宮など女性特有のがんの罹患割合は少なかった。

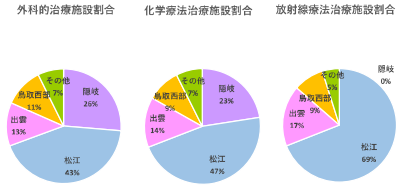


隠岐圏域の患者は隠岐圏域の病院を初診し、初回治療は松江圏域で行う傾向が多くみられる。隠岐圏域以外では、どの圏域でも同じ施設で初診、診断、治療までが行われている傾向がみられた。

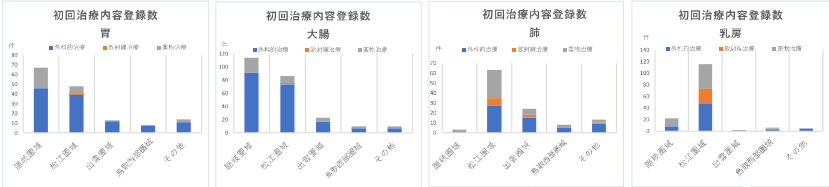
【結果　②】《初回治療内容別・部位別》



登録件数が多かった部位のステージ別比較を行った。隠岐圏域はどの部位でも共通してステージⅢの割合が島根県全体、松江圏域よりも多かった。



外科的治療や化学療法は隠岐圏域の病院で少なからず初回治療が行われているが、放射線治療など隠岐圏域以外の病院での選択肢しかない治療もある。



部位別で比較した胃、胃や大腸は比較的隠岐医療圏で初回治療が行われていたが肺や乳房などは、ほぼ隠岐圏域以外の病院で初回治療が行われているという結果であった。そのほか、咽頭、喉頭、前立腺等で他施設での初回治療症例が多かった。

【考察】

- 隠岐圏域のがん罹患者は島根県全体、松江圏域と比較してステージⅢの割合が多い傾向から、がんの早期発見につながる検診や受診機会が少ない可能性がある。今後も検診体制の整備や啓発が大切であると考えられる。
- 治療内容によって隠岐圏域以外の病院での治療を余儀なくされるケースが多い。
- 隠岐圏域のがん罹患者が、希望する治療を受けるためには交通手段、宿泊施設、休日の確保等様々な問題がある。
- 隠岐圏域のがん罹患者が、標準的な治療を受けられるように、松江圏域をはじめとする隠岐圏域以外の病院では利便性への配慮が必要であると考えられる。
- かかりつけ医、拠点病院等の専門医、患者の三者の情報の共有ができ、医療の役割分担を明確にすることも必要と考えられる。
- がん登録からは隠岐圏域のがん医療に関して、生存率という視点から検討を加えたいと考えている。

日本がん登録協議会第33回学術集会　COI開示　　筆頭演者名：引野　美貴子　　当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。